

〈研究ノート〉

地方公共団体における幸福度関連指標の導入事例

——門真市のケース——

辻 隆 司

Case Studies of the Introduction of Well-Being Indicators in Local Governments:

—Case of Kadoma City—

Tsuji, Takashi

Abstract

In this paper, we investigated Kadoma city, which is one of the advanced cases of introducing well-being indicators in local governments. Especially we focused on analysing the purpose and background of introducing well-being indicators in Kadoma city, the features and systems of indicators, utilization methods and updating systems, etc. Kadoma city developed the “Kadoma City Happiness Indicator”, using the results of a detailed questionnaire survey to citizens. As a result, it became a simple index system of two-layer structure of “concept index” and “monitoring indicator”, and it was an effective indicator as a policy evaluation indicator that was consistent with basic policy in Kadoma city.

1. はじめに¹

わが国の地方公共団体において、幸福度関連指標を政策評価に導入しようとする動きが広がっている。先進事例としては東京都荒川区の取組みが広く知られているが、熊本県や静岡県、長久手市、田原市、小松市、珠洲市の事例など、同様の動きは全国の都道府県や市区町村に広がりつつある。都道府県、政令指定都市及び県庁所在市等を中心とした101自治体を対象にアンケート調査を行った枝廣・角田・高瀬（2012）によると、地域独自の幸福度指標の構築に向けた具体的な取組みを行っている地方公共団体は、2012年8月時点で少なくとも22団体存在していたことが明らかになっている。また、総合計画等の政策目標に幸福度や真の豊かさ指標等を盛り込んでいる地方公共団体については、調査対象101団体の約4分の1を占める25団体にのぼることも明らかになっている。さらに、2013年6月には全国52の基礎自治体からなる住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合（通称「幸せリーグ」）が設立されるなど、こうした動きは活発さを増している。

しかしながら、こうした動きには課題も多い。地域の実情に即した幸福度関連指標の導入を目指すものの、どの様な指標体系にすればよいか、どの様に開発すればよいか、また、どのように活用すればよいかなど、各地方公共団体は苦慮しているところが多い。このため、先行的に導入を進めている地方公共団体の取組みは、後続する地方公共団体にとって大いに参考になるが、その取組み実態は十分に明らかではなく、情報共有は進んでいない。

¹ 本稿を作成するにあたり、門真市にヒアリング調査を実施しました。ヒアリング調査に対応頂いた同市総合政策部企画課の渡辺廣大氏及び野澤恵子氏には貴重なお話と資料を頂きました。ここに記して感謝申し上げます。もちろん、本稿のありうべき誤謬は全て筆者の責任です。なお、本研究はJSPS 科研費（基盤研究C）16K03675の助成を受けたものです。

そこで本稿では、先進事例の一つである門真市の取組みに着目し、幸福度指標導入の目的と経緯、指標の特徴と体系、開発方法と更新体制、活用方法と課題等についてまとめる。門真市では、「門真市幸福度指標」を開発・整備しているが、指標の構造や総合政策との整合性など、他市町村ではあまりみられない示唆に富む取組みを行っている。同市公表資料の分析と開発担当部局である同市総合政策部企画課へのヒアリング調査²を踏まえて、取組み実態を明らかにする。なお、門真市は大阪府の北河内地域に所在する地方公共団体であり、大阪市の東端に接する衛星都市である。2017年9月1日時点の市内人口は12万4,063人、世帯数は61,951世帯、市域面積は12.3k m²である。

2. 幸福度指標導入の目的と経緯

まず、門真市が幸福度指標の導入を進めた目的は、次の通りである。人口減少・少子高齢化が進展する中、成熟・縮小社会へと向かっているわが国において、門真市としても、これまでのような経済成長追求型の発展とは異なる真の豊かさを模索する必要性が高まりつつあった。このため、物質的・経済的尺度への過度な偏重を改め、市民の幸福感や生活満足を基軸とした新たな行政評価指標の導入を目指すようになった。将来的には政策評価ツールとして幸福度指標も取り込み、これまで以上にPDCAサイクルを活かし、市政の方向性や重点施策の検討に活用することを目的としている。

門真市が幸福度指標の導入を進めたそもそものきっかけは、園部一成前市長の意向によるものであった。同市長は、3期目の市長選で幸福度指標の導入を公約として掲げ、市民の支持を受ける形で当選した。3期目の市政が始

² 門真市総合政策部企画課へのヒアリング調査は、門真市役所において2016年12月21日に実施した。

まるとともに幸福度指標導入の検討が始まったが、その経緯は次の通りである。

まず、2013年9月頃から、荒川区や京丹後市、長久手市などの先進事例を参考にしながら幸福度指標に関する調査研究を始めた。外部のシンクタンク・コンサルタントへ調査委託するなど専門的な研究も進め、2014年1月には、副市長等の市幹部職員を対象にした庁内研究会議を行った。同会議では、先進事例の取組み実態を共有するとともに、幸福度指標の活用の方性等について協議を行った。この会議を起点に指標開発に本格的に取り組むことになるが、以降は、学識経験者を交えた研究会や委員会・ワーキンググループなどで検討が進められる（図表1参照）。まず、「門真市幸福度指標調査研究会」を設け、幸福度の考え方についての理解を深めるとともに、幸福度の把握を目的としたアンケート調査の方法論等について検討を進めた。そして、その結果を踏まえて、アンケート調査票の設計を行い、2014年5月22日～6月13日に市民2,500人を対象に「市民の幸福感に関するアンケート調査」を実施した。また、同研究会を発展させる形で、市民、学識経験者、市幹部職員で構成された「門真市幸福度指標策定委員会」を立ち上げ、さらに、その下部組織として「門真市幸福度指標策定委員会ワーキンググループ」を設置した。同委員会及びワーキンググループでは、アンケート調査結果の分析と指標体系の具体的な検討を進めた。こうした取組みを経て2014年度末に「門真市幸福度指標」が策定された。

3. 特徴と体系

「門真市幸福度指標」は、基礎自治体が策定する指標として最終的に市の施策の検討に活用することを想定して開発が進められた。このため、指標開発における基本的な考え方として、市民の主観的な幸福につながる要因を「構成要素」と「決定要因」に区分して概念を整理するとともに、これに

市政との関わりを位置づけるなど、主要政策との関係性を体系的に整理した（図表2参照）。なお、「構成要素」とは、健康状態や経済環境、人とのつながりなどの総合的な幸福感をもたらす直接的な要因を意味する。他方で、「決定要因」とは、構成要素の状態を決定づける具体的な要因を示す。例えば、「構成要素」が“健康状態”の場合は、その「決定要因」は睡眠時間や朝食摂取の有無などが該当する。「構成要素」が“経済環境”であれば、「決定要因」は所得や就労状況などが相当する。「構成要素」が“人とのつながり”の場合は、家族関係や近所づきあいの状況などが該当する。

「門真市幸福度指標」は、こうした考え方を基盤に開発されたが、最終的な指標体系は、「概念指標」と「モニタリング指標」の二層構造で構成された（図表3参照）。「概念指標」とは、前述の「構成要素」に相当する概念である。「これらの要素が市民の幸せにつながっているのではないか」という観点で策定された指標群であり、全体で17種類の指標が設定されている。例えば、「概念指標①：心と体が健康である」、「概念指標②：仕事にやりがいを感じ、生活とのバランスが取れている」や「概念指標③：日常生活に対する身体的・経済的不安が小さい」など、これらが満たされれば幸福度が向上すると考えられる包括的な概念を示している。

一方、これら概念指標で示された概念を具体的な行動や現象等に落としこみ、検証可能なものにするために設定された指標群が「モニタリング指標」である。これは前述の「決定要因」に相当する概念になる。概念指標ごとに複数のモニタリング指標が設定されており、全体で144種類の指標で構築されている³。これらは、アンケート調査の解析結果に基づいて幸福度との間に統計的に有意な相関関係があった決定要因や、決定要因に関連する既存統計の存在の有無、総合計画との関係性などを参考に設定されている。

³ 概念指標ごとのモニタリング指標の数は、最小で3種類、最大で18種類で構成されており、概念指標によって設定されているモニタリング指標の数が異なる。

4. 活用方法と更新体制

既述の通り、「門真市幸福度指標」は、最終的に市の施策の検討に活用することを想定して設計されている。前述の「構成要素」と「決定要因」は門真市第5次総合計画の施策体系に則して検討されており、アンケート調査票には施策に関連する質問項目が反映されている。そして、最終的に策定された門真市幸福度指標の一部については、総合計画の施策体系との接点が整理されている（図表4参照）。門真市としては、門真市幸福度指標を総合計画に基づく施策の検証や、政策の方向性の検討に活用する意向であるが、国内の事例において総合政策と幸福度指標の整合性を明確に整理している地方公共団体は少ない。このため、同市の取組みは貴重であるといえよう。

また、「門真市幸福度指標」の更新体制であるが、市の当面の方針としては「門真市幸福度指標」は毎年更新する予定である。具体的な更新作業としては、基盤となるアンケート調査である「門真市市民幸福実感に関する意識調査」を毎年実施し、指標を構成するデータを更新する形で行われる。アンケートの規模は、初回調査と同規模を予定しており、市民を対象に無作為抽出で郵送配付・郵送回収で実施する。これまでのアンケート調査の実績としては、2014年5月に実施された初回調査が、配布数2,500件、有効回収数918件（有効回収率36.7%）、2015年12月に実施した第2回調査では、配布数2,500件、有効回収数838件（有効回収率33.5%）であった。こうした結果を受けて、今後の継続調査でもアンケート調査票の配布数は約2,500件を予定しており、有効回収数は約1,000件を目標にしている⁴。

「門真市幸福度指標」の開発・更新に関する同市における担当部局は総合

⁴ 門真市のアンケート調査では、同一回答者に継続調査する「ご意見番制度」がある。同制度による回収率は4割を超えるが、「門真市幸福度指標」に関するアンケート調査では無作為抽出で実施しているため、回収率はやや低くなっている。

政策部企画課である。市職員の担当者は1名であるため人員は限られているが、専門的スキルが必要な作業を中心に専門業者に外部委託する形で作業負担を補完している。作業の負担感に関して、現担当者にヒアリングしたところ、アンケート調査票自体は2014年度中の取組みで完成しているため、アンケート調査を継続的に実施することにはそれほど負担感を感じず、現体制で特に問題はないとのことであった。ただし、将来的には、初回調査から数年間の調査結果の総括的な分析を行う必要があると考えており、その結果に応じて、調査方針や方法、アンケート調査票等が大幅に変更される場合は、現体制では不十分であり人員等の体制を拡充する必要があるとのことであった⁵。

5. 幸福度指標導入の課題

「門真市幸福度指標」の導入の目的と経緯、指標の特徴と体系、今後の活用方法と更新体制等については以上の通りである。前市長の意向のもと、市民や学識経験者、市職員を交えて綿密な検討が進められ、総合政策との整合性もとられているなど、洗練された指標が構築されている。ただし、いくつかの残された課題もある。ヒアリング調査の結果、少なくとも次のような課題が浮き彫りになった。

まず、「門真市幸福度指標」は、門真市が独自に構築した指標であるため、他の市町村との比較ができない点が挙げられる。指標の開発が進むにつれて、委員会等での議論において他市町村との比較に関して関心が高まったよ

⁵ アンケート調査票に関しては、市民委員からの指摘を踏まえて、2014年5月の初回調査から2015年12月の第2回調査にかけて若干修正している。初回調査は調査票の冒頭から市役所関係の質問が多い上に随所に難解な用語があったため、回答者にとっては答えにくい内容であった。このため、質問の順番を変更するとともに質問文の表現を平易にするなど、回答者の答えやすさに配慮した修正が行われている。

うである。しかし、多くの市町村では幸福度関連指標に関する取組みを行っていないため、そもそも比較できない。もっとも、幸福度関連指標の導入に関しては、荒川区、京丹後市、長久手市などの先進的な地方公共団体が少なからず存在するが、それぞれ独自性の高い指標を構築しているため単純には比較できない。すなわち、「門真市幸福度指標」は時系列の分析は可能であるが、市町村別の横断面の分析には適していないことになる。現状、幸福度関連指標の導入を目指す市町村等で比較可能な共通指標を設定する動きはみられない。同市としても今後の検討課題としている。

また、二つ目の課題として、門真市内のエリア間での比較分析ができない点が挙げられる。例えば、市内の主要駅周辺部と郊外部や、旧市街地・住宅街と新興市街地・住宅街で、幸福感の程度やその要因に関して違いがみられる可能性がある想定される。このため、指標の開発過程でエリア間の比較分析を検討したが、サンプル数に限りがあることや、調査分析が煩雑になること等を理由に当面は実施しないことにしたようだ。こうした分析は、市内各エリアの実情に合わせたきめ細かい施策を検討する上で大いに参考になると考えられる。このため、この点についても今後の検討課題となっている。

そして、三つ目の課題としては、庁内の関係各課や職員等が必ずしも十分に理解しているとは限らない点である。市政の評価や今後の方向性を定める指標が、抽象的かつ主観的な指標であることに抵抗感を示す市職員は少なからず存在する。門真市がスローガンとして市民の幸福感を重視すること自体に反対する市職員は少ないが、具体的な施策に展開する際は思うように理解が進まないことが多い。このため、市民はもちろんのこと、庁内の職員にどう理解を促すかが大きな課題となっている。

最後に、四つ目の課題としては、市長交代に伴う事業の継続性の問題である。いくつかの市町村においては、市長交代の影響で幸福度関連指標の検討や導入に対して消極的なスタンスになるケースや導入事業そのものが立ち消えになるケースがみられる。既述の通り、「門真市幸福度指標」の導入は、

園部一成前市長が3期目の選挙において公約に掲げた肝いりの事業であったため、市長交代により導入事業の重要度にやや不透明感が表れつつある。ただし、現市長も「門真市幸福度指標」の活用に関しては肯定的に捉えているようであり、未だ明確な方針こそ示されていないものの事業の継続性は保たれている。しかし、前市長時代は明らかに重点事業としての位置づけであったのに対して、今後、現市長が「門真市幸福度関連指標」を市政の中心に据えるかどうかはわからない。このため、市内における同事業の存在感は前市長時代ほど大きくない。

6. おわりに

本稿では、幸福度関連指標導入の先進事例の一つである門真市の取組みに着目し、同市における幸福度指標導入の目的と経緯、指標の特徴と体系、活用方法と更新体制、導入における課題等についてまとめた。門真市は、「門真市幸福度指標」の開発を進めるにあたり、専門的知識と技能を持つシンクタンク・コンサルタントの協力のもと、委員会及びワーキンググループ等において、市民、学識経験者、市職員間で協議を行い、綿密な検討を進めた。

その結果、「門真市幸福度指標」は、「概念指標」と「モニタリング指標」の二層構造のシンプルな指標体系になった上に、総合政策との整合性もとれた政策評価指標として実効性の高い指標が構築された。他市町村や市内エリア間の比較分析が難しいことや、市内市職員の理解を促すことの難しさなどのいくつかの課題は残るものの、門真市の取組みは、地方公共団体における幸福度関連指標の導入事例として示唆に富んでいる。後続する地方公共団体にとっては貴重な存在であり、同市の今後の動向は注目に値するといえよう。

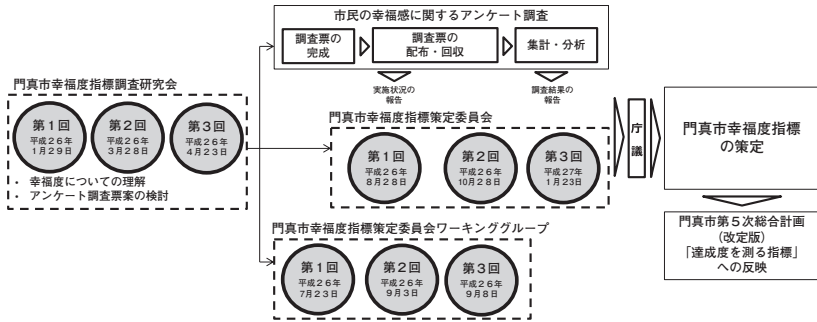
参考文献

- 枝廣・角田・高瀬（2012）「自治体の幸福度や（真の）豊かさ等の指標化や政策目標への考慮状況に関する調査」『幸せ経済社会研究所調査レポート』No. 5
- 辻隆司（2010）「「幸福度」は地域政策の検討に役立つのか～Subjective Well-beingに基づく地域分析の試み～」みずほ総合研究所株式会社『Working Papers』2010年12月
- 辻隆司（2014）「幸福度指標を巡る国内外の動向に関するサーベイ」『九州工業大学研究報告 人文・社会科学』(62), 1-12, 2014-03
- 門真市『門真市幸福度指標策定支援業務・報告書』平成27年3月
- 門真市『門真市市民幸福実感に関する意識調査・平成27年度調査結果報告書』平成28年3月
- 門真市“門真市幸福度指標”門真市ホームページ（アクセス日：2017年9月16日）(https://www.city.kadoma.osaka.jp/shisei/gijiroku/kohukudo_sihyo.html)

地方公共団体における幸福度関連指標の導入事例

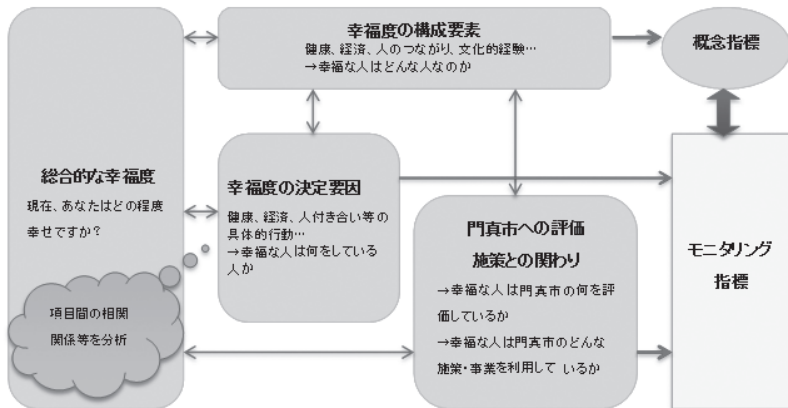
参考図表

図表 1 門真市幸福度指標策定の経緯



出所：門真市「門真市幸福度指標策定支援業務・報告書」平成27年3月

図表 2 門真市幸福度指標の体系



出所：門真市ホームページ

図表3 門真市幸福度指標の構成

門真市幸福度指標		
概念指標①	心と体が健康である	1 健康づくりをしやすい環境だと感じる人の割合
		2 持病を抱えていない人の割合
		3 朝食を毎日食べている人の割合
		4 週2回以上運動する人の割合
		5 睡眠が6時間以上取れている人の割合
		6 お気に入りの散歩・ジョギングコースがある人の割合
		7 たばこを吸っている人の割合
		8 健康診断を毎年受けている人の割合
		9 定期的に歯科健診を受けている人の割合
		10 医療施設が整備され、医療サービスがいつでも利用しやすい環境ができていると感じる人の割合
		11 救急医療体制が整っていると感じる人の割合
		12 かかりつけ医がある人の割合
		概念指標②
2 子育てや介護等の家庭の事情に応じて、バランスのとれた生活を過ごすことができていると感じる人の割合		
3 家族で家事がバランスよく分担できていると思う人の割合		
4 自由に過ごす時間がある人の割合		
概念指標③	日常生活に対する身体的・経済的不安が小さい	1 日常生活に不安を抱える人に十分な支援ができていると感じる人の割合
		2 経済的環境が恵まれていると思う人の割合
		3 日常生活を送る上で経済的負担は感じていない人の割合
		4 行政から経済的支援を受けていない人の割合
		5 所得割納税義務者1人当たりの総所得額
概念指標④	安心して楽しく子育てができる	1 安心して楽しく子育てが出来る環境だと感じる人の割合
		2 子育てについて「相談できる人が少なく孤独を感じる」ことがない人の割合
		3 子育てについて、相談したり助けてくれる人がいる人の割合
		4 子どもと遊びに行く公園がある人の割合
		5 0歳から小学校6年生まででかかりつけ医を持っている人の割合
		6 子育て応援ポータルサイト「すくすく(かどまっすナビ)」へのアクセス月間件数
		7 ファミリー・サポート・センター登録者数
		8 キッズサポーター登録者数
		9 子ども女性比(ある年の0-4歳人口(男女計)を、同年の15-49歳女性人口で割った値)
概念指標⑤	子どもの健やかな成長を実感できる	1 子どもが健やかに育つことの出発点であると感じる人の割合
		2 自分の子どもが基本的な生活習慣が身についていると思う人の割合
		3 自分の子どもが「確かな学力・豊かな心・健やかな体」を身につけていると思う人の割合
		4 朝ごはんを毎日食べる子どもの割合
		5 家庭におけるコミュニケーションが取れていると感じる人の割合
		6 公立小中学校の教育内容や学校施設等が良いと感じる人の割合
		7 全国学力・学習状況調査における全国平均正答率に対する門真市平均正答率の割合(門真市平均/全国平均)
		8 小学校・中学校の学校図書館の1人当たりの貸出点数
		9 サタスタ事業の参加人数
		10 まなび舎Kidsの年間延べ参加者数
		11 不登校児童・生徒数(千人率)
概念指標⑥	人と人との支え合いが実感できる	1 互いに助け合い、支え合う地域のつながりがあるまちだと感じる人の割合
		2 頼りになる親類・友人がいる人の割合
		3 頼りにされている親類・友人がいる人の割合
		4 電車やバスなどで座席を譲ったことがある人の割合
		5 民生委員の顔と名前を知っている人の割合

出所：門真市「門真市幸福度指標策定支援業務・報告書」平成27年3月

地方公共団体における幸福度関連指標の導入事例

門真市幸福度指標	
概念指標⑦	隣近所や地域コミュニティとのつながりがある
モニタリング指標	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域や市民活動を通じてつながりが強い地域と感じる人の割合 2 市役所が地域・市民活動を活性化するために努力していると感じる人の割合 3 隣近所と付き合いがある人の割合 4 地域のまつりなどの行事に参加したことのある人の割合 5 自治会の加入率 6 地域会議を知っている人の割合
概念指標⑧	まちづくりを担っている一員であると実感できる
モニタリング指標	<ol style="list-style-type: none"> 1 ボランティアや市民活動への取組みが盛んなまちだと感じる人の割合 2 NPOやボランティア活動に参加している人の割合 3 人・まち・元気事業(出前講座、市民講座、市民大学)に参加したことのある人の割合 4 協働によるまちづくり人材バンクの登録者数 5 自治基本条例(の内容)を知っている人の割合 6 市民公益活動支援センターを知っている人の割合 7 市内に主たる事務所を置くNPO法人の法人数
概念指標⑨	地域への愛着がある
モニタリング指標	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域への愛着を育むのに熱心なまちだと感じる人の割合 2 地域の祭など・伝統文化行事に参加したことのある人の割合 3 市内の歴史文化遺産を3つ以上知っている人の割合 4 地域に思い出のある場所やお気に入りの場所がある人の割合 5 今後も住み続けたいと思う人の割合
概念指標⑩	犯罪や事故・災害への不安が小さい
モニタリング指標	<ol style="list-style-type: none"> 1 犯罪や事故、災害の心配が少ないまちであると感じる人の割合 2 犯罪にあたり、あいかげたりしたことがない人の割合 3 消費生活センターを知っている人の割合 4 青色防犯パトロール及び公用車が子どもの安全見守り活動のために巡回している姿を見た人の割合 5 LED型防犯灯の設置率 6 防犯カメラの設置台数 7 夜間に歩いて、道路が明るいと感じる人の割合 8 刑法犯認知件数 9 道路上で交通事故にあたり、ヒヤリとしたことがない人の割合 10 交通事故年間発生件数 11 救命・救命講習延べ参加者数(守口市門真市消防組合) 12 災害に対する備えをしている人の割合 13 自宅から近い指定避難場所を知っている人の割合 14 火災年間発生件数 15 消防団員の防災士認証登録者数
概念指標⑪	便利で快適な生活ができる
モニタリング指標	<ol style="list-style-type: none"> 1 快適な生活基盤が整っていると感じる人の割合 2 安心して水道を利用できていると感じる人の割合 3 生活道路が安全で便利だと感じる人の割合 4 下水道の人口普及率 5 持ち家1住宅当たりの延べ床面積 6 快適で利便性の高いまちだと感じる人の割合 7 バスや鉄道などの公共交通機関が利用しやすいと感じる人の割合 8 市道(私道を含む)の道路幅員充足延長 9 主要駅の周辺がまちの顔としてにぎわいのある魅力的な環境だと感じる人の割合 10 放置自転車の年間撤去台数 11 不法投棄の年間処理件数
概念指標⑫	自然・うるおいを実感できる
モニタリング指標	<ol style="list-style-type: none"> 1 緑豊かな公園・広場・緑地に行った時に自然のうるおいを実感する人の割合 2 うるおいを感じるために、市内に行く場所がある人の割合 3 公園・広場・緑地を身近に感じる人の割合 4 自宅や所有地の周りに花や緑を栽培している人の割合 5 うるおいのあるまちだと感じる人の割合 6 市民1人当たりの公園・広場・緑地の面積

出所：門真市「門真市幸福度指標策定支援業務・報告書」平成27年3月

門真市幸福度指標	
概念指標⑬	文化芸術に触れたり、スポーツや学習したりする機会に恵まれている
モニタリング指標	1 文化的なまちだと感じる人の割合 2 文化芸術を鑑賞・体験したことがある人の割合 3 生涯学習活動を行っている人の割合 4 市内の文化施設を利用したことがある人の割合 5 文化サークル活動の登録団体数 6 図書館年間貸出点数 7 市内のスポーツ施設を利用したことがある人の割合 8 スポーツサークル活動の登録団体数
概念指標⑭	平和で人権が守られている
モニタリング指標	1 人権が尊重され、共生社会の形成が進んでいると感じる人の割合 2 自分が他人の人権を尊重していると思う人の割合 3 人権や平和に関する講演や勉強会へ参加したことがある人の割合 4 人権にかかる講座・講演会の年間参加者数 5 (仮称)門真市女性サポートセンターの利用者数 6 男女共同参画が進んでいると感じる人の割合 7 市役所の管理職員における女性比率(課長級以上) 8 地方自治法上の委員会及び附属機関における女性委員の比率 9 非核平和講演会の年間参加者数 10 頼りになる親類・友人がいる人の割合 11 頼りにされている親類・友人がいる人の割合
概念指標⑮	環境保全に対する意識が高い
モニタリング指標	1 環境にやさしい活動をしている人の割合 2 公害の少ない環境の良さを感じている人の割合 3 ごみの減量や省エネルギー対策、リサイクルの取組が行われていると感じる人の割合 4 ノーマーカーデーは車を利用しない人の割合 5 市域の1人当たりごみの年間排出量 6 一般廃棄物の排出量 7 市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量 8 地域清掃活動の登録団体数
概念指標⑯	地域の産業が盛んで活力がある
モニタリング指標	1 企業連携に伴う新規事業の創出数 2 有効求人倍率 3 法人税割額
概念指標⑰	わがまちのことがよくわかり、市役所が信頼できる
モニタリング指標	1 「広報かどま」を読んでいる人の割合 2 「議会だより」を読んでいる人の割合 3 市長の顔と名前を知っている人の割合 4 知っている市議がいる人の割合 5 市のイメージキャラクター「ガラスケ」を知っている人の割合 6 パブリックコメント制度を知っている市民の割合 7 ホームページのアクセス月間件数 8 市公式ツイッターのフォロー数 9 行政情報が分かりやすく提供されていると感じる人の割合 10 市政に市民意見が十分反映されていると感じる人の割合 11 各種市民相談があることを知っている人の割合 12 迅速で明るく、わかりやすい窓口サービスがなされていると感じる人の割合 13 組織がわかりやすく、市民にとって利用しやすいものとなっていると感じる人の割合 14 市役所職員の対応・行動が「良い」と感じる人の割合 15 無駄を省いた、健全で効率的な財政運営がなされていると感じる人の割合 16 市長選挙の投票率 17 市議会議員選挙の投票率 18 市民ご意見審判制度を知っている人の割合

出所：門真市「門真市幸福度指標策定支援業務・報告書」平成27年3月

図表4 総合計画の体系、幸福度の体系とアンケートの質問内容（一部抜粋）

総合計画の体系	構成要素と決定要因、関係施策との接点の整理	設問番号	アンケート質問内容
市民のまちづくりへの参画を促進する環境をつくり出す	構成要素① 市役所へのつながり	14	あなたは、市役所や市政を身近に感じますか
	個別決定要因	15	あなたは、市長の顔と名前をご存知ですか
	総合評価	16	あなたは、ご存知の市議会議員がいますか
	関係施策との接点等	17	門真市の行政情報（わかりやす）が提供されていると思いますか
		18	あなたが、日頃、情報入手する方法について、主なもの以下から2つまで選んで〇をつけてください
		19	あなたは「広報からま」講座などより「まちづくり講座」が好まれますか
		20	あなたは、市ホームページをご覧になっていますか
		21	あなたは、今、ご自身、地域コミュニティ活動に参加していますか
		22	あなたは、隣近所の人との付き合いが好まれますか
		23	あなたは、門真市の入居の付帯金（入居費）が好まれますか
まちづくりの推進を促す環境をつくり出す	構成要素② 地域とのつながり	24	門真市役所は、地域や市民活動（地域団体など）を活性化するために努力していると思いますか
	個別決定要因	25	あなたは、ご自身が地域や門真市のまちづくりに関与していますか
	総合評価	26	あなたは、NPOやボランティア活動に参加していますか
	関係施策との接点等	27	あなたは、門真市がボランティアや市民活動への取組みが盛んかと思えますか
		28	あなたは、人、まち、気象事業（出前講座・市民講座・市民大学）に参加したことがありますか
		29	あなたは、NPOやボランティア活動を支援する事を目的にした市民公益活動支援センターをご存知ですか
		30	あなたは、門真市が市民とともにも市政を進めていると感じていますか
		31	あなたは、前回の市長選挙・市議会議員選挙に行きましたか
		32	あなたは、市民ご意見簿制度をご存知ですか
		33	あなたは、市役所へ来庁する事はどの様な用件が多いですか
まちづくりの推進を促す環境をつくり出す	構成要素③ 「市民生活」	34	あなたは、市役所窓口のわかりやすさ・利便性等についてどのようになっていますか
	個別決定要因	35	あなたは、職員に対する行動についてどのようになっていますか
	総合評価	36	あなたは、門真市は市民にとって利用しやすいかわかりやすい組織だと思いますか
	関係施策との接点等	37	あなたは、安心して暮らす上で子育てができていますか
		38	あなたは、子育てにどの様な不安を感じますか
		39	あなたは、子育てについて、相談したり助けられる人がいますか、いるとすればどこですか
		40	あなたは、門真市は安心して暮らす子育てが盛んかと思えますか
		41	あなたは、以下に示す子育て支援サービス等の施設を利用したことがありますか
		42	あなたは、身近にかけつけの小さい児童館がありますか
		43	あなたは、子どもととも遊びに行く公園などがありますか
心豊かなまちづくりの推進を促す環境をつくり出す	構成要素④ 子育てへの満足感	44	あなたは、子育て支援に関する情報、どこまで入っていますか
	個別決定要因	45	あなたは、子どもが健やかに成長していると感じていますか
	総合評価	46	あなたは、子育て支援に関する情報、どこまで入っていますか
	関係施策との接点等	47	あなたは、門真市の公立中学校の教育環境についてどのようになっていますか
		48	あなたは、お子さんが、毎日朝食を食べる、早寝早起きなど、規則正しい生活習慣を身につけていると感じますか
		49	あなたは、自分のお子さんが、社会で生きていく上で必要な知識、社会性、体力などの「生きる力」の育成に力を入れていくと思えますか
		50	あなたは、門真市は、子育てが健やかに着つづつする環境かと思えますか
		51	あなたは、教育の充実に向けての門真市の以下の取組について、ご存知ですか
		52	あなたは、いじめや登校、引きこもり等に対する門真市の以下の取組について、ご存知ですか
		53	あなたは、子育て支援、引きこもり等に対する門真市の以下の取組について、ご存知ですか

出所：門真市「門真市幸福度指標策定支援業務・報告書」平成27年3月